

## 令和3年度 第9回全体庁議（7月12日開催）

区分	審議・報告	案件名 (担当部)	(3) 「帯広市岩内自然の村」の方向性の検討について[生涯学習部]
----	-------	--------------	-----------------------------------

### ■ 提案・報告の趣旨

岩内自然の村は、昭和56年に開村し、40年が経過した青少年の自然体験施設であり、指定管理期間の節目に合わせて、施設の今後の方向性について検討を進めており、現時点での検討状況を令和3年7月29日の経済文教委員会に報告するもの。

### ■ 提案・報告の主な内容(概要)

#### 1 岩内自然の村の概要

自然に親しむことを通じ、市民の健康増進を図り、自然に対する理解を高めることを目的に、昭和56年7月に開村し、農業体験実習館「山の家」、管理棟、バンガロー、キャンプ場などの施設を設置。毎年の開村期間は6月1日～10月31日。

#### 2 検討に至る背景

- ・建設から40年以上を経過し、施設の老朽化が進むなど、今後も安全性を確保し中長期的に使用を続けていく場合、耐震工事などの大規模な改修が必要。
- ・長期的に利用者が減少し、さらに開村当初利用者として見込んでいた市民利用が全体の2～4割、高校生以下の利用も2～3割となっており、実習館や管理棟(研修室)を中心とした施設の設置目的である自然体験活動の場としての利用も減少。
- ・開村時から状況が変わり、バンガローやキャンプ場については、近隣のポロシリ自然公園をはじめ十勝管内で類似施設の整備が進んでいる。
- ・帯広市公共施設マネジメント計画に基づき、施設の現状や施設を取り巻く環境の変化等を整理しながら、検討を行うもの。

#### 3 施設の方向性について

青少年を中心とした市民による自然体験の場としての利用の減少や、施設の老朽化による大規模改修が必要となること、管内における体験活動施設の充実などを踏まえ、岩内自然の村は、施設設置の目的である青少年を中心とした市民の自然体験施設としては一定の役割を果たしたものと判断する。

なお、今後の検討作業としては、民間事業者等による施設利活用の可能性について幅広く聴取をした上で令和4年度予算の編成作業に併せ施設の方向性を固めていく。

### ■ 今後のスケジュール

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| ・令和3年7月29日   | 経済文教委員会へ報告        |
| ・令和3年9月頃～11月 | 民間事業者等への施設利活用調査   |
| ・令和4年1月(予定)  | 経済文教委員会へ報告        |
| ・令和4年3月(〃)   | 年度内を目途に、方向性をまとめる。 |

### ■ 審議結果

- ・同内容で、7月29日経済文教委員会へ報告することで了承された。

### ■ その他、指摘事項等

- ・特になし